第 2016-47 号

恵みと真理のニュース

2016 年 11 月の四次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］

私が求めるよりもっと溢れるほど与えてくださり、希望の通りに信仰の家庭を作るようにしてくださった恵みに感謝します

私は儒教の家庭で生まれ育ってられ結婚するまで田舎で住みながら親を手伝って家事をしました。母はソウルを行き来しながら商売して、ソウルに行くときことに地下鉄で伝道紙をもらってきました。その伝道紙に書いてあるイエス様とキリスト信仰について知りたい心が出来て自ら教会に行きました。しかし、家庭の環境を克服することが出来なくて信仰生活をすることが難しかったです。遅い歳に結婚して儒教の思想と慣習を徹底的に従う家の嫁になりました。時間に経って私が教会に通うのを知って舅姑はとても嫌いでした。
始めてから親と離れて暮らしましたが、結婚してみたら生活が大変でした。旦那が会社に入って間もないから少ない給料をもらっていました。かっかりしたのを表現しなくて静かに神様を委ねて神様の助けを求めたくて旦那に教会に行きたいと静かに話したら許可してくれました。家の近くにある教会に通い一か月ほど礼拝を捧げても心に平安と喜びがなくてやめました。その間、息子と娘を産みました。家で聖書を読んで祈るうちに恵みと真理教会の首区域長と区域長の伝道でアンヤン聖殿に行って礼拝を捧げるようになりました。初めて礼拝に三席する時にまず多くの聖徒を見て驚きました。多くの聖徒がイエス様を知らなくて信じない人のため悲しい人のため祈っているのを見ました。神様はその祈りを聞いてくださり、そのため私を呼んでくださったのだと思って感動を受けました。礼拝を捧げて聖書御言葉を一節一節意味を悟って行き信仰が成長しました。二人の子供をつれて熱心に礼拝を捧げました。
旦那は家族のため昼夜休まずに働きました。主日にも休まなくて仕事をしました。そうした、旦那は過労で体が痛くてもう働かなくて横になっていました。私は旦那がかわいそうと思って横になっている旦那の健康のため切に祈りました。その次の日に朝旦那は治って出勤しました。神様に信仰がなかった旦那でしたが私の祈りに対するありがたさと神様の恵みに感謝を心の深く思っていたようです。私が教会に通ってから3年ぶりに教会に行ってイエス様を受け入れました。
私は信仰生活がもっと喜び溢れました。礼拝に参席にして説教を聴くたびに当会長の牧師が伝えてくださる御言葉がはちみつより甘くて魂の良い洋食になりました。そして、何もなく始まった結婚生活だったので神様に経済的に安定され、神様にたくさん献身するように福与えてくださいと熱心に祈りました。儒教的な家庭で一番の嫁が神様をよく信じていくのは優しくなかったです。それで、私の夫婦はイエス様を信じ福を受ける信仰の家庭になるように祈り巻いた。神様は私を憐れんでくださり私を強くつかんでくださいました。私の涙を拭いてくださり迫害を勝つように恵みを与えてくださいました。"主はこう言われる。創造者、主、すべてを形づくり、確かにされる方。その御名は主。「わたしを呼べ。わたしはあなたに答え、あなたの知らない隠された大いなることを告げ知らせる。（エレミヤ33：2, 3）祈るをする時に主が続けてこの御言葉をくださり大変な中でも感謝しながら生きるように導いてくださいました。
私は田舎で農業をする親にただ生きる姿を見せて親に誇る子になりたくて痛くても痛い表現もしなくて生きました。婚家の様々なことに休まずに忠実にしました。そうするうちに旦那の会社が不渡りになって経済的に大変になり、旦那が大きく落胆になって試練が来ました。私は旦那の誠実で良い人格と能力を知っているので揺れなくてむしろ旦那を責任者として働くように、今の苦難が 災いを転じて福と成すように祈りました。そうしながら、私も家計を伝うように働きました。長く待ちましたが、私が祈った通り旦那を高くしてくださいました。" だから、言っておく。祈り求めるものはすべて既に得られたと信じなさい。そうすれば、そのとおりになる。（マルコによる福音書11：24）" 真心で祈ると神様が私たちに一番良いとき、一番よいことで答えてくださいました。何の名前で十一献金を捧げるのを祈って" 何事につけ、感謝を込めて祈りと願いをささげ、求めているものを神に打ち明けなさい。という御言葉を持って信仰で祈ると答えてくださいました。
　子供たちが大学に進学するときも“女は子供を産むとき、苦しむものだ。自分の時が来たからである。しかし、子供が生まれると、一人の人間が世に生まれ出た喜びのために、もはやその苦痛を思い出さない。（ヨハネの福音書16：22）御言葉をくださってこの御言葉を持ってすべての家族が居間に座って切に祈ったら私の願い通りに答えてくださいました。そればかりでなく息子と娘が大学卒業をしてから自分が願っていた良い職場に入りました。担得られない問題にあっても礼拝に参席して御言葉を聴き祈って賛美したら問題が主の手にあって私の心は大きい主の慰めと平安に臨みました。恐れて怖いときには" 恐れることはない、わたしはあなたと共にいる神。たじろぐな、わたしはあなたの神。勢いを与えてあなたを助け／わたしの救いの右の手であなたを支える。（イザヤ書４１：１０）" という御言葉の中にいるように聖霊様が導いてくださいました。長く待った時間も神様が私に答えてくださった時間だったのを悟りました。
主は生きておられて相変わらず主を信頼し愛を与えてくださいます。主はわたしを青草の原に休ませ／憩いの水のほとりに伴い、 主は羊飼いです。これからは家庭が祈った通り福ある信仰の家門になる過程です。旦那は按手執事、私は勧士の職分を受けて限りなく喜んで感謝する心で仕えています。真の人生の勝利者であり、幸せな者であり、成功者になったのを告白して、その間与えてくださる神様の恵みと愛に深く感謝します。まず、神の国と神の義を求めるように生きるようにしてくださり、受けた職分をよく担えるように導いてくださる神様に栄光を捧げ、家庭の福と摂理してくださった神様を賛美します。

［信仰コラム］

私は試験に入らないです

わたしの兄弟たちよ。あなたがたが、いろいろな試錬に会った場合、それをむしろ非常に喜ばしいことと思いなさい。(ヤコブの手紙, 11:2-4)

聖徒には試験に入らないことがなによりも重大な事です。 神様は私たちが試験にあう時に手伝ってくれるが試験を免除してくださらないです。 イエス様もサタンから試験にあったし人々に試験にあいました。しかし試験に入らなかったです。 試験の種類と試験を勝つ秘訣に対して調べます。

先ずに、試験の種類に対してよく見ます。
苦難、逼迫、誘惑、障害と困難、犠牲という試験があります。 神様の試験があって、サタンの試験があります。 神様は善良な意図にだけ聖徒を試みします。私たちの心を低めるため、神様の命令を守るかあるいは守らないかを分かるため、人がパンだけで生きるのではないですエホバの口から出るすべてのお言葉で生きるのが分からせるために試みします。 そして私たちの信仰に不純物をとり除いて完全させるのため、私たちの信仰を検証して賞をくださろうと試みします。しかしサタンは悪い意図だけ人を試みします。 信者を試みして信仰生活が沈滞に陥らせて世俗に染まらせて異端に引かれて行かせます。 逼迫と患難という手段を通じて、誘惑という手段を通じて試験に抜けさせます。 教会で対人関係が未熟で性格が円満ではない人々によって傷つく信者を試験に抜けるように衝動します。 教会に行くようと決心する人や、まだ生まれかわらなかったが教会に通っている人が聖職者あるいは教人に関する良くないことを見てきかせてイエス様を信じようと思う考えを捨てさせて教会を離れさせます。

次は、さまざまな試験に対処するさまざまな方法をよく見ます。

第一は、イエス様だけ眺めなければなりません。人々を眺める目を換えてイエスキリストのみを仰望しなければなりません。 そしてイエスキリストが自分をあがないしてくださったその愛と恵みに感激して泣いて笑って世の中で探すことができない歓喜と喜悦を味わわなければなりません。 そして主にあって約束された今世と来世にかける形言することができない福と企業を悟って幸福感を感じなければなりません。二番目は、忍耐しなければなりません。（ヤコブの手紙 1:12）三番目は、嬉しく思わなければなりません。(ヤコブの手紙 1:2～4) 四番目は、祈らなければなりません。（マタイによる福音書 6:13）五番目は、貪欲の心を捨てなければなりません。（テモテへの第一の手紙 6:9,10）六番目は、試すサタンをお言葉で対敵して退けなければなりません。(ヤコブの手紙 4:7) 七番目は、神様を仕える事を生の最高の目標と目的にしなければなりません。 ただ神様を仕える事だけが生の目的な人、どんな場合に置かれても神様を仕える姿勢に変わりがない人に近付く試験は害をかけることができずに返って神様の光栄を現わす材料になってしまいます。 八番目は、試験を耐えて勝つので得るようになる有益を思わなければなりません。 試験は私たちの信仰を純粋にさせて信仰の根を深く付かせる役目をします。 信仰の真実性の可否を現われさせて神様の権能と愛をもっと深くて豊富に経験するようにする役目をします。
私たちが試験にあう時に思い出すお言葉があります。“そのことを思って、今しばらくのあいだは、さまざまな試錬で悩まねばならないかも知れないが、あなたがたは大いに喜んでいる。こうして、あなたがたの信仰はためされて、火で精錬されても朽ちる外はない金よりもはるかに尊いことが明らかにされ、イエス・キリストの現れるとき、さんびと栄光とほまれとに変るであろう。”（ペテロの第一の手紙 1:6,7）必ず思い出すお言葉がまたあります。 “あなたがたの会った試錬で、世の常でないものはない。神は真実である。あなたがたを耐えられないような試錬に会わせることはないばかりか、試錬と同時に、それに耐えられるように、のがれる道も備えて下さるのである。”（コリント人への第一の手紙, 10:13）“主ご自身、試錬を受けて苦しまれたからこそ、試錬の中にある者たちを助けることができるのである。”（ヘブル人への手紙, 2:18)

皆さんは試験される時にさびしくないです。 試験される時に助ける神様を眺めてください。 助けを求めてください。 皆さんは “私は試験に入らないです。” といつも言えるように願いします。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

原則と所信

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

人は原則と所信を持っていなければなりません。原則と言うのは根本になる法則です。 あまねく適用される法則です。 生の原則のない人は一貫性があるように処身することができないです。 原則と言うのは船の帆と櫓あるいはスクリューと船のキーのようなものです。 帆や櫓あるいはスクリューやキーがない船は風吹きに、波によって行くようになります。 所信と言うのは自分が信じて思うのがあってそのまま行動することを意味します。 所信に行うということは意志を持って堂々と行う態度を意味します。考えなしに行動するとか他人の言葉に動揺することがなくて自分の考えを屈せず持って処身するのです。

1. 聖徒の生には必ず適用されなければならない大原則があります。 それはエホバ神様たけを相変わらず信じて愛しながら仕えるという原則です。

神様は人間を神様の形状のどおり創造して神様が作った創造物を管理させました。 そして自由意志を持った人格体として神様と善悪を知る木の実の口約束を結ばせました。 神様の形状どおり創造された人間が神様と口約束を結ぶ対象になることでもっと尊さを得るようになりました。 だから人間が持たなければならない生の大原則は聖書に啓示されたエホバ神様たけを相変わらず信じて愛しながら仕えるのです。そしてこんな原則に適当な所信を持って行動しなければなりません。
旧約聖書に登場する予言者はこのような原則と所信が明らかな人々でした。 彼らの中にエリヤは予言者は傑出した人物です。 ところでエリヤに関する記録を見れば彼の持った原則は揺之不動だがその原則に適当に 所信で行動することができなかった場合がありました。 こんな事が私たちに半面教師になります。 私たちがそんなことに付かないように鏡になるために関わる記録をよく見ます。
アハブ王がイスラエル国を治める時にあった事です。 アハブ王はシドン国の王の娘イゼベルと政略結婚をしました。 王后イゼベルはイスラエル民がバアルを仕えさせようとシドンのバアルの予言者 450 人を連れて来ました。 アハブ王は王后イゼベルの要請でイスラエルの首都サマリアにバアル神殿を建築してその中にバアル祭壇を建てました。 そうして遂にイスラエル国にはバアル神を崇拝するようになりました。
この時に偉大な予言者エリヤが登場しました。
ある日エリヤは予言者がアハブ王に行って宣布しました。 “ギレアデのテシベに住むテシベびとエリヤはアハブに言った、「わたしの仕えているイスラエルの神、主は生きておられます。わたしの言葉のないうちは、数年雨も露もないでしょう”(列王紀上, 17:1). すると実際に日照りが始まりました。 持続する日照りによって地は貧土になって行って飢饉が極甚になりました。 3 年 6 ヶ月が経ってアハブ王と予言者エリヤが対面するようになりました。
アハブ王がエリヤを見るとただちに “イスラエルを苦しめる者よ”と責めて責任転嫁のものを言いました。
エリヤは堂々と答えました。 “アハブはエリヤを見たとき、彼に言った、「イスラエルを悩ます者よ、あなたはここにいるのですか」。彼は答えた、「わたしがイスラエルを悩ますのではありません。あなたと、あなたの父の家が悩ましたのです。あなたがたが主の命令を捨て、バアルに従ったためです。それで今、人をつかわしてイスラエルのすべての人およびバアルの預言者四百五十人、ならびにアシラの預言者四百人、イゼベルの食卓で食事する者たちをカルメル山に集めて、わたしの所にこさせなさい」。そこでアハブはイスラエルのすべての人に人をつかわして、預言者たちをカルメル山に集めた。そのときエリヤはすべての民に近づいて言った、「あなたがたはいつまで二つのものの間に迷っているのですか。主が神ならばそれに従いなさい。しかしバアルが神ならば、それに従いなさい」。民はひと言も彼に答えなかった。
エリヤは民に言った、「わたしはただひとり残った主の預言者です。しかしバアルの預言者は四百五十人あります。 われわれに二頭の牛をください。そして一頭の牛を彼らに選ばせ、それを切り裂いて、たきぎの上に載せ、それに火をつけずにおかせなさい。わたしも一頭の牛を整え、それをたきぎの上に載せて火をつけずにおきましょう。 こうしてあなたがたはあなたがたの神の名を呼びなさい。わたしは主の名を呼びましょう。そして火をもって答える神を神としましょう」。民は皆答えて「それがよかろう」と言った。そこでエリヤはバアルの預言者たちに言った、「あなたがたは大ぜいだから初めに一頭の牛を選んで、それを整え、あなたがたの神の名を呼びなさい。ただし火をつけてはなりません」。 彼らは与えられた牛を取って整え、朝から昼までバアルの名を呼んで「バアルよ、答えてください」と言った。しかしなんの声もなく、また答える者もなかったので、彼らは自分たちの造った祭壇のまわりに踊った。彼らは午後 3 時頃までわいわいを震えたがどんな事も起こらなかったです。
ついにエリヤの順番になりました。 そしてエリヤは昔、主の言葉がヤコブに臨んで、「イスラエルをあなたの名とせよ」と言われたヤコブの子らの部族の数にしたがって十二の石を取り、その石で主の名によって祭壇を築き、祭壇の周囲に種二セヤをいれるほどの大きさの、みぞを作った。 また、たきぎを並べ、牛を切り裂いてたきぎの上に載せて言った、「四つのかめに水を満たし、それを燔祭とたきぎの上に注げ」。また言った、「それを二度せよ」。二度それをすると、また言った、「三度それをせよ」。三度それをした。水は祭壇の周囲に流れた。またみぞにも水を満たした。夕の供え物をささげる時になって、預言者エリヤは近寄って言った、「アブラハム、イサク、ヤコブの神、主よ、イスラエルでは、あなたが神であること、わたしがあなたのしもべであって、あなたの言葉に従ってこのすべての事を行ったことを、今日知らせてください。主よ、わたしに答えてください、わたしに答えてください。主よ、この民にあなたが神であること、またあなたが彼らの心を翻されたのであることを知らせてください」。そのとき主の火が下って燔祭と、たきぎと、石と、ちりとを焼きつくし、またみぞの水をなめつくした。民は皆見て、ひれ伏して言った、「主が神である。主が神である」。 エリヤは彼らに言った、「バアルの預言者を捕えよ。そのひとりも逃がしてはならない」。そこで彼らを捕えたので、エリヤは彼らをキーション川に連れくだって、そこで彼らを殺した。”
アハブ王は王后イゼベルにガルメル山であった衝撃的な事件を詳らかに話しました。 イゼベルは激怒してエリヤに誓って 24 時間以内に殺すという通牒をしました。通牒を受けたエリヤは小使いとともにうろたえするようにブエルセバまで逃げました。 エリヤは小使いをブエルセバにとどまらせて一人きり荒野に一日の道をもっと行きました。 そして彼はあるロデム木の下に座って神様に死ぬのを求めました。 エリヤはエホバ神様だけ仕えるという原則には変わりがなかったが偶像崇拝者を恐れないという所信が崩れ落ちました。 エリヤが空腹と疲労でくたびれるとおりくたびれたままロデム木の下に横になって寝るのに御使いが来て撫でながら起きて食べ物を食べなさいと言いました。起きて見たら炭火に焼いたパンと水一本があって食べて飲んだ後また横になって寝ました。エホバの御使いが再び来て撫でてこれから行く道のために再びパンと水を食べて飲むように勧めました。 神様の御使いが与えた食べ物を食べたエリヤは元気を出して神様の山、ホレブを向けて行きました。
エリヤが その所で彼はほら穴にはいって、そこに宿ったが、主の言葉が彼に臨んで、彼に言われた、「エリヤよ、あなたはここで何をしているのか」。彼は言った、「わたしは万軍の神、主のために非常に熱心でありました。イスラエルの人々はあなたの契約を捨て、あなたの祭壇をこわし、刀をもってあなたの預言者たちを殺したのです。ただわたしだけ残りましたが、彼らはわたしの命を取ろうとしています」”(列王紀上, 19:10) としました。 このような対話を通じてエリヤは神様の経綸を悟って自分の更新のきっかけを用意することができました。神様は引き継いで珍しい方法でエリヤが神様の臨在を体験させてついに所信に行動するように手伝ってくれました。

2. 新約時代に生きる私たちには神様が自分の名前を旧約時代とは違うように啓示なさいました。 これは非常に重要な事実なので私たちが明確に理解して分からなければなりません。

旧約聖書に記録された神様の称号の中に三つの呼称は ‘エロヒム’ ‘エホバ’ ‘アドナイ’ です。 そのうち ‘エホバ’は神様が直接自分の名前に啓示なさった固有名詞です。 ‘エホバ’という名前は神様と彼の民の口約束の関係を現わす場合にたくさん使われました。 エホバ神様は救いの約束をくださってこれを成す救援者でほとんどすべての口約束がイエス・キーリストにあって恵みと救いに関わります。 エホバ神様はそのすべての口約束をイエス・キーリストにあって完全に成します。 それで旧約時代には神様が自分の名前を ‘エホバ’と啓示なさったが新約時代に入っては ‘イエス・キーリストの神様’と明らかに啓示なさいました。 コリント人への第二の手紙, 1 章 3 節に “ほむべきかな、わたしたちの主イエス・キーリストの父なる神、あわれみ深き父、慰めに満ちたる神。” としました。 エペソ人への手紙, 1 章 17 節には “どうか、わたしたちの主イエス・キーリストの神、栄光の父が、知恵と啓示との霊をあなたがたに賜わって神を認めさせ、” と言いました。 私たちが信じて愛しながら仕える神様は聖書に啓示された神様すなわちイエス・キーリストの神様ではなければなりません。

聖徒には生の大原則は聖書に啓示されたイエス・キーリストの神様たけを相変わらず愛して仕えるのです。 人が適用しなければならないすべての原則と所信はこんな大原則に基盤しなければなりません。 愛する皆さんはこのような原則に固く立って事毎に所信に処身なさるように願いします。